

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立星ヶ丘小学校】

1 実践テーマ	I ・ II ・ <u>III</u> ・ <u>IV</u> ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 （学 年 ・ 人 数）	第4学年（79名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 （ねらい）	・ 障害のある人の実体験や生活の工夫などを、直接出会い、交流することを通して、ユニバーサルデザインの意義やバリアフリーのまちづくりを理解する。これから障害のある人と関わっていく上で、自分でできることを考え、生かそうとすることができるようになる。
5 取組内容	1 オリンピックパラリンピックについて調べよう （1）ピクトグラムを見て、オリンピックパラリンピック競技に関心をもたせる。 （2）パラリンピック競技について各自調べ、新聞にまとめる。 （3）パラスポーツ体験（ゴールボール）をする。 2 「やさしさのある まちづくり」発表会をしよう （1）「生き方デザイン研究所」の方を招聘し、障害のある方やその方を支えるボランティアの方のお話を聞く。 （2）点字についての体験学習を行う。 （3）視覚障害や聴覚障害、肢体不自由などの障害に関することについて課題を設定し、グループに分かれて調べ学習をする。 （4）ゲストティーチャーを招いて発表会を行う。 （5）振り返りとまとめをする。
6 主な成果	○ ピクトグラムによる導入

①



②



③



「このピクトグラムは何のスポーツを表しているでしょう。」

- ・①はバスケットボールだと思う。
- ・車いすに乗っているみたい。
- ・②や③も車いすに乗っているようだ。
- ・車いすに乗ってやるスポーツがあるのだな。

「今年障害のある人が参加するパラリンピックが行われました。テレビで見た人もいます。パラスポーツについて調べてみましょう。」

2020東京オリンピック開会式のピクトグラムの印象が強かったためか、オリンピックパラリンピック競技に興味をもつ児童が多かった。オリンピック中継をテレビで見た児童は多かったが、パラリンピック中継を見た児童は少なかったため、ピクトグラムを使って、実際にどのようなパラ競技があるか、調べ学習を行った。ピクトグラムによる導入は児童の興味関心を高めるうえで、効果があった。

○ パラスポーツ体験（ゴールボール）

ゴールボールの体験活動では、タオルや帽子で目隠しをして行った。ほとんどの児童が、目を隠すことでボールを思い通りに投げたり、捕ったりすることが難しいと感じていた。中には見えないことへの不安や恐怖を感じた児童もいた。ゴールボールの難しさを体感することで、視覚障害の方の生活するときの困難さを考える児童もいた。

【児童の感想】

- ・目かくしをしているとどこにボールが転がっているか分からず、ボールを捕るのが難しかったです。
- ・パラリンピックの選手は、目が見えないのに、ボールの中の鈴の音だけで投げたり撮ったりできるのがすごいと思いました。

○ 「やさしさのある まちづくり」発表会

（１）障害のある方との出会い

「生き方デザイン研究所」から手足や視覚に障害のある方に来ていただいた。手に障害のある方からは、手の代わりに足を使って、食事や身の回りの支度をする様子を実際に見せていただいた。視覚障害の方は盲導犬を連れており、普段の生活の様子や盲導犬の役割について教えていただいた。また、障害をもつ方をサポートするボランティアの方からも話を伺うことができた。





【児童の感想から】

- ・手のように足を使いこなしているれんこんさんがすごいと思いました。
- ・目が見えない分、形を触ったり、音を聞いたりして物の名前を当てていてすごいと思いました。
- ・どこか不自由があっても、工夫すればしっかり生活できることを知りました。
- ・ごでいさんやごーさんは障害のある人を見守ったり、手伝ったりしている方です。目が見えない方には音で表わしたり、拍手をしたりするとよいことを学びました。
- ・目が見えない人や車いすに乗っている人のパラリンピックがあり、障害のある人がいろいろなことをがんばっていると思いました。

○点字の体験活動

特別支援学級の担任から点字の読み方や打ち方を教えてもらった。



【児童の感想から】

- ・点字を読もうとすると難しかったです。でも、読めた後はうれしい気持ちになりました。
- ・点字は目が見えない人にはなくてはならないものだと思います。点字を生み出したのはどんな人が知りたいです。
- ・今まで店などで点字を見かけることがなかったけれど、これからはどんなところで点字が使われているか知りたいです。

○ 課題についての調べ学習

視覚障害や聴覚障害、肢体不自由などに関することで課題を設定し、グループに分かれて調べ学習を行った。調べたことは新聞などにまとめた。



〈課題別グループ〉

- ・視覚障がい者の生活（点字、点字ブロック、盲導犬など）
- ・聴覚障がい者の生活（手話、指文字）
- ・手や足に障がいがある人の生活（バリアフリー、ボランティア）
- ・障がいがある人のための道具
- ・いろいろな障がい（性同一性障害など）
- ・パラリンピック（新しい競技など）

さまざまな障害をもつ方の生活について調べたことで、それぞ

	れの方が抱える不自由さや不便さについて知り、共生社会について考えることができた。 【児童の感想】 ・聴覚障害のある人は、朝どのようにして起きるのか知りたいと思い、道具について調べた。物が震えて時間を知らせるという工夫を行っていることがわかった。 ・盲導犬は視覚障害のある人を守るために、特別な訓練を受けていることが分かった。 ・いろいろな障害があって、それを助けるための道具や工夫があることが分かった。 ○「やさしさのあるまちづくり」発表会 ※ 3学期に予定している。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○ 総合的な学習の時間の中で、問題解決的な学習や体験活動を展開できるよう工夫した。 ○ 今年度は障害をもつ方やその方をアシストするボランティアの方をゲストティーチャーとして招聘することができ、児童にとっては、貴重な体験となった。障害をもつ方の感覚の鋭さなどを間近に感じることもできた。また、生活上の工夫や不便さなども伺い、調べ学習で得た知識が実際の生活と結びつけることができた。調べ学習の後の発表会にも GT を招聘し、児童の調べたことや感じたことを伝えることで、障害のある方から感想や助言をいただき、交流を深めることができた。
8 主な課題等	○ 今年度はコロナ感染拡大防止のため、ゲストティーチャーの招聘に関して計画を立てることが難しかった。感染状況によって招聘することができない場合は、リモート学習に切り替えるなどして、交流ができるように計画した。計画の変更を余儀なくされる場合もあるが、ICT を活用するも含め、柔軟に対応できるように計画することが重要であると感じた。 また、点字やゴールボールなど、児童が実際に体験して学ぶことの意義が大きいと、道具の整備を行うことが必要であると感じた。
9 来年度以降の 施予定	○ 本校では、第 4 学年の総合的な学習の時間のカリキュラムに福祉の学習として位置付けている。障害のある方との交流やパラスポーツ体験など今後も継続していきたい。 ○ オリンピックパラリンピックの出場経験者と実際に触れあう機会があれば全校に広げ、実感を伴った理解を深めたい。スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築やスポーツに対する興味関心の向上、スポーツを楽しむ心の醸成に、全校児童で取り組んでいきたい。